

# スウェーデンの選挙を振り返って : 変化する政治状況

スベン・アキラ・オストベリ

在日スウェーデン大使館参事官

訳 伊集 守直

## 誰が次の首相になるのか

スウェーデンでは、9月9日に国会議員選挙、20の県議会と290の市議会についての地方議員選挙が同日実施された。今回の選挙は通常とは様相を異にするものであった。というのも、国会で第3党にあるスウェーデン民主党の出現により政治状況が一変しているのである。

2つの主流な政治ブロックはどちらも国会の349議席に対して過半数を獲得することができなかった。スウェーデンの制度では、左右の主要政党に対して小規模政党がそれぞれ加わることで、より幅の広い「ブロック」が選挙を前にして明らかにされる。今回の国会議員選挙で、社会民主党（以下、社民党）、環境党、左党から構成される中道左派ブロックは144議席、穏健党、中央党、キリスト教民主党、自由党から構成され、「同盟(Alliance)」とも呼ばれる中道右派ブロックは143議席を獲得した。いずれのブロックにも属していないスウェーデン民主党

は62議席を獲得している。

第1党である社民党は28.3%という記録的に低い得票率となったが、これは100年以上の間で最悪の結果である。中道右派の穏健党は19.8%の得票率で第2党を維持した。これに対して、スウェーデン民主党は17.5%まで得票率を伸ばしたが、予想されたほどの伸びではなく、前回と同様に第3党にとどまった。また、環境党は4%の得票率を満たすことで国会に議席を確保している。

移民や統合、犯罪、医療、教育が争点になった今回の選挙戦では、スウェーデン民主党がその核となるメッセージにこだわった。それは、2012年以降に40万人の亡命申請者(国民1人当たりでヨーロッパ最大)を受け入れてきたことで、スウェーデンの寛大な福祉制度が限界点に達したという主張である。

9月25日に開かれた新たな国会において、社民党党首であるステファン・ロベーン首相は、中道右派ブロックとスウェーデン民主党の反対票により、首相指名の信任を得られなかった。そのため、現在では日々の職務はこなしながらも、政治的なイニシアティブはとらない暫定首相として在任している。

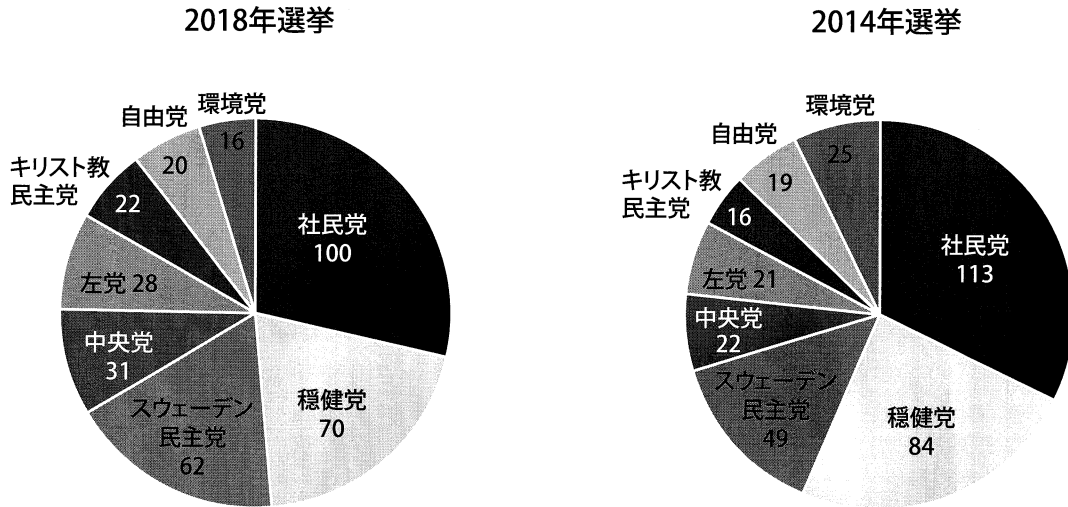
穏健党議員で新たに議長に選出されたアンドレアス・ノレーンによって連立協議が進められている。彼の任務は新しい政権を発足することができる「誰か」を見つけることにある。そのため、各政党党首と協議をしながら、そのうちの1人に政権発足を打診していく。

### スベン・アキラ・オストベリ (Sven Akira Östberg)

1967年生まれ。University of Gothenburg, School of Business, Economics & Law, Gothenburg (Sweden).

Master in Economics.

2015年より、在日スウェーデン大使館参事官。



(出所) 筆者作成。

議長が政権発足を打診した党首の取り組みが成功していると判断すると、国会において首相指名の信任投票にかけることができる。議長はこの信任投票を国会において4回試みるか、もしくは少なくとも十分な数の国会議員に対して、棄権するか、反対票を投じないように説得する。もし国会が信任投票に失敗すると、3か月以内に改めて選挙を実施しなければならない。なお、連立協議が続けられる期間について時間的制約は設けられていない。

穏健党党首ウルフ・クリステションは、党首として議長から初めて政権の発足を打診された。社民党は中道右派連立政権を許容しないという情報が入り、かつ同じブロックを構成する中央党と自由党はスウェーデン民主党の支援を必要とする政権には参加しないであろうとみられたことから、彼は自分たちのブロック内の1つから3つの政党による、より小さな連立政権を作ることを示唆した。しかし、中央党と自由党はそれでもスウェーデン民主党に依存することになるという理由から、その構想を支持しないことを表明した。そのため、クリステション党首は10月14日に議長に対して政権を担当できないことを伝えた結果、彼に対する信任投票は行われなかった。

続いて、10月15日に社民党党首ステファン・ロベーンに対して政権の発足が打診された。彼には2

週間という期限が与えられており、連立協議に成功するかどうか注視されている。ここでも中道右派ブロックの中央党と自由党が重要な役割を果たすとみられている。

### スウェーデンの政治制度

スウェーデン国会は349議席をもつ。政党が獲得する議席数は選挙における政党の得票数に比例して決定される。主要なルールは、1つの政党が国会で議席を得るには少なくとも4%の得票率を獲得しなければいけないというものである。今回の選挙による各政党の獲得議席数および得票率は以下のとおりである。図1では、2018年と2014年選挙における各政党の獲得議席を示している。

社会民主党	100議席	(28.26%)
穏健党	70議席	(19.84%)
スウェーデン民主党	62議席	(17.53%)
中央党	31議席	(8.61%)
左党	28議席	(8.00%)
キリスト教民主党	22議席	(6.32%)
自由党	20議席	(5.49%)
環境党	16議席	(4.41%)

次に、各政党の特徴について紹介していこう。

**社会民主党**：党首のステファン・ロベーンは、現在の暫定首相でもある。同党はその核心として労働者政党であり、1889年に結党されたスウェーデンで最も古い政党である。その政策は自由、平等、連帯に基づいており、雇用の創出とすべての人により良い教育を提供することに優先順位が置かれている。スウェーデンの最大政党であり、2014年から2018年にかけて環境党との連立政権を組んだ。

**穏健党**：党首はウルフ・クリステション。同党は、保守主義かつ国家主義政党として出発し、1904年に結成された。今日では、自らのイデオロギーをリベラル保守主義、つまりリベラルな理念をもった保守政党と定義している。個人の選択の自由が政策の中心となり、一般的に減税と経済的自由主義を支持している。中央党、キリスト教民主党、自由党とともに「同盟」(中道右派ブロック)を結成し、2006年から2014年にかけて4党による連立政権を組んだ。2014年と2018年選挙においてスウェーデンの第2党となっている。

**スウェーデン民主党**：党首はインミ・オーケソン。1988年に結成された同党は、国家主義に基づいた社会保守主義政党である。スウェーデンの移民政策が寛大すぎるために、多くの移民の流入が莫大な社会的、経済的負担を国にかけているという考えをもっている。その政策は、スウェーデンの福祉制度を持続可能とする手段として国家アイデンティティを保護することを基本としている。2010年選挙で5.7%の得票率により、国会に初めて議席を獲得した。

**中央党**：党首はアニー・レーフ。1913年に結成されたリベラルな農業政党で、当時は農民同盟と呼ばれていた。社会は人々のお互いに対する責任、自然に対する責任によって成り立つべきだという信念をもつ。政策上の焦点は、国家経済、環境政策、統合政策にある。2014年の選挙では中道右派ブロックの1つとして6%の得票率を獲得した。

**左党**：党首はヨナス・フェーシュテット。同党は自らを環境保護に基づいた社会主義かつフェミニスト政党と定義している。1990年以降は「左党」と呼ばれているが、共産党としての結党は1907年までさかのぼる。1995年のスウェーデンのEU加盟に反対し、いまでも離脱を主張している。2014年選挙では6%の得票率を獲得した。

**キリスト教民主党**：党首はエバ・ブッシュ・トー。1964年に結成され、1991年に初めて国会に議席を獲得した。安定した家族が社会の基礎となるべきだという信念をもつ。同党が力を入れる政策は、高齢者介護の改善、子持ち家庭に対する在宅育児を選択する自由の提供、会社に対する規制の簡素化、成長促進のための減税と失業の克服である。2014年選挙では、中道右派ブロックの1つとして4.5%の得票率を獲得した。

**自由党**：党首はヤン・ビョークルンド。1934年に国民党として結成され、2015年に党名を「自由党」に変更した。社会的リベラル政党であり、個人の尊重に根差した自由主義を理念としている。同党は政治状況に対してつねに中道を主張しているが、ここ数年はより保守的になっているとみられている。学校制度の改善が中心的政策となっているが、同時にNATOへの加盟と原子力への投資を主張している。2014年選挙では国会で第7党となり、中道右派ブロックを構成している。

**環境党**：代表はイザベラ・レビンとグスタフ・フリードリッ。同党は環境政策に焦点を絞っている。1981年に結党され、1988年選挙で躍進し、国会で初めて議席を獲得した。党首の代わりに、つねに女性1名、男性1名の代表を置いている。気候変動の抑止、環境保護、原子力の廃止が主要政策となっている。2014年から2018年にかけて社民党と連立政権を組んだ。

## 政治における女性

今回の選挙ではおよそ46%が女性議員となり、世界で最も国会における女性議員が多い国の1つとなっている。その理由は多様かつ複雑であるが、

1つの重要な出来事は、社民党が1994年選挙において、比例代表候補者名簿上で男性候補者と女性候補者を交互に並べることを自発的に決定したことである。それ以来、他のほとんどの政党で女性議員の選出が増加したが、現状ではまだ平等というところまでは至っていない。各政党が自ら責任を持ってきたため、男女間の議席の割り当てを法制化するという必要はなかった。1990年代以降は政府においても閣僚のジェンダーバランスを改善することが努力されており、2014年から2018年のロベーン内閣では、閣僚の男女比は1対1となった。

## 選挙の傾向

今回の選挙により、349議席のうち161名（約46%）が女性議員、188名（約54%）が男性議員となった。2014年選挙では、それぞれ43.6%と56.4%であった。最年少議員は1996年生まれ、最年長議員は1933年生まれである。

国会議員選挙は4年ごとに9月の第2土曜日に実施される。県議会選挙と市議会選挙も同日に実施される。投票日まで18歳に達し、国内居住者として登録されている、あるいは登録されたことのあるすべてのスウェーデン国民に対して国会議員選挙の選挙権が与えられる。今回の選挙では749万5936人が選挙権をもち、投票率は87.17%であった。

社民党は65%の選挙区において最大政党となり、穏健党は22%、スウェーデン民主党は11%であった（各選挙区は同様の人口規模になるように設定され、約1250人の人口をもつ選挙区が6000区ある）。穏健党は大都市部で最も強い。スウェーデン民主党は南部で最も強いが、北部を除く全国の選挙区で勝利している。社民党は全国の選挙区で均等に勝利している。選挙区における所得水準と高さ穏健党の得票には明確に正の相関関係がある。左党は人口密集地域において最も票を集める一方で、スウェーデン民主党と中央党は地方部で最も強くなっている。

2014年選挙と比較した今回の選挙の明確な傾

向は、スウェーデン民主党があらゆるタイプの国民からの支持を伸ばしたことである。これはとくに男性とブルーカラー労働者、自営業者、農業従事者であてはまるが、若者の間ではさほどではない。

女性有権者の間で最も支持を集めたのは社民党で全体の29%であり、穏健党17%、スウェーデン民主党14%、左党と中央党ともに11%と続く。2014年選挙では、社民党32%、穏健党19%、スウェーデン民主党10%であった。

男性有権者の間で最も支持を集めたのはスウェーデン民主党で全体の24%であり、社民党23%、穏健党19%と続く。2014年選挙では、社民党30%、穏健党25%、スウェーデン民主党16%であった。

ブルーカラー労働者の間で最も支持を集めたのは社民党で全体の31%であり、スウェーデン民主党26%、穏健党13%、左党10%と続く。2014年選挙では、社民党39%、穏健党13%、スウェーデン民主党11%、左党9%であった。

自営業者と農業従事者の間で最も支持を集めたのは穏健党で全体の26%であり、スウェーデン民主党25%、中央党と社民党がともに12%と続く。2014年選挙では、穏健党35%、社民党15%、中央党12%、スウェーデン民主党8%であった。

若者（18～21歳）の間で最も支持を集めたのは穏健党で全体の21%であり、社民党20%、スウェーデン民主党13%、中央党と左党がともに12%と続く。2014年選挙では、社民党23%、穏健党21%、スウェーデン民主党12%、環境党12%、左党7%であった。

65歳以上の高齢者の間で最も支持を集めたのは社民党で全体の33%であり、スウェーデン民主党19%、穏健党15%と続く。2014年選挙では、社民党38%、穏健党24%、スウェーデン民主党12%であった。

## ブロック政治の終焉？

スウェーデンにおけるブロック政治は2004年に穏健党、中央党、キリスト教民主党、自由党(当

時は国民党)の4党が「スウェーデンのための同盟 (Alliance for Sweden)」を組んだ際に形成された。それ以前では、1982年から2006年にかけて24年間のうち21年間は社民党が政権に就いていた。「同盟」の形成は、中道右派ブロックが権力をつかむための戦略であった。ただし当時は、4党が統一されないのであれば、社民党が個々の政党を抑えながら引き続き政権を維持できようと考えられていた。

「同盟」の戦略は2006年の選挙で成功を収め、2014年まで政権を握ることとなった。その対抗戦略として、社民党は環境党および左党と2010年選挙に間に合うように「赤緑協力 (Red-Green Cooperation)」を結んだ。このように、スウェーデンでは中道左派と中道右派に分かれるブロック政治が発展して、徐々に二大政党制に近いものとなっていった。

「同盟」政党は、2014年から2018年の野党時代にも協力関係を継続した。例えば、2014年12月には政府予算案が否決されたが、これは「同盟」が提出した予算案をスウェーデン民主党が支持したことによるものだった。そのため、社民党と環境党による中道左派連立政権が「同盟」による予算を執行することを余儀なくされた。

それ以来、政治的選択肢の対立軸の明確さは弱まってきている。2018年選挙では、「同盟」は共同マニフェストを作成することができず、彼らの共同イニシアティブは「気乗りしないもの」と呼ばれた。一方で、連立政権にあった社民党と環境党も別々に選挙戦を戦った。

この理由はスウェーデン民主党の台頭にある。富や資源の分配の問題といった左右の対立軸に整理しやすい問題は有権者の関心から離れ、法と秩序、民族の統合、そしてとりわけ移民と亡命申請という問題に注目が集まった。重大なことに、これらの感情に訴える政策課題により両ブロックがそれぞれ分裂することとなった。

2015年から2018年にかけて、各ブロックで最大政党である社民党と穏健党は、多くの有権者がこれらの問題に対するスウェーデン民主党の強硬

路線に賛成していることを暗黙のうちに受け入れており、自身の政策の調整を行った。しかし、各ブロックの他の政党はそのような調整は行わなかったため、両ブロックの安定性は弱まる結果となった。

「同盟」は、スウェーデン民主党とどのように関わるのか、あるいは関わらないのかという戦略上の問題によって分裂した。スウェーデン民主党に対して、政治学で言うところの「防疫線 (cordon sanitaire)」、あるいは隔離戦略を維持することは、中央党と自由党にとっては交渉の余地のない目標である。一方で、穏健党とキリスト教民主党にとっては、スウェーデン民主党へある種の便宜を図ることは考えられうることである。

社民党と穏健党は伝統的なブロックを忘れ、一緒に「大連立」を組むべきだと示唆する専門家もいる。彼らの主張では、これが近年のドイツにおける解決策なのである。

しかし、そのような大連立はありえないだろうと見ている識者もいる。例えば、この2つの古いライバル政党だけでは国会で過半数を取ることはできない。そのため、他の政党を連立に加えなければならないが、それでは取引があまりにも複雑になってしまうであろうという指摘である。また、そのような連立は心理的に困難であろうことも強調されている。実際に、2014年選挙後には、過半数を満たさなくとも議席の多いブロックが政権に就くことを反対のブロックが認めることが両ブロックの間で決定され、12月合意と呼ばれた。しかし、この合意は中道右派ブロックの多くの議員にとっては許容できないものであることが明らかになったのである。

現在では、どちらのブロックも過半数をとれていないが、ブロックをまたいだ過半数勢力の形成も実現が難しく、どの政党もスウェーデン民主党とは直接に取引をしたがらない。この状態はスウェーデンを統治不能にしてしまうだろうか。必ずしもそうではないだろう。

国会の信任を得て政権を担当する人物を決定する際に、スウェーデンではいわゆる消極的手続き (negative procedure) を採用している。簡単に言えば、「疑わしきは罰せず」という考え方である。つま

り、首相候補者は国会において過半数の支持を得る必要はなく、自身に対する過半数の反対がないことを示せばいい。この違いは非常に大きく、分裂や対立をしている政党が窮地から抜け出すことができる。

専門家はこのことを例証するために中央党の事例を挙げている。中央党は今回の選挙でいい結果を残して第4党にあるが、自由党と同様に厳しい選択を迫られている。党首のアニー・レーフは「同盟」による連立政権を希望すると表明しているが、同時にスウェーデン民主党の承認を必要とするいかなる政権にも参加しないことを強調している。そのため、「同盟」による政権担当があるとすれば、社民党の支援が必要であると述べている。

専門家が指摘するには、このような選択は調整をつけることが難しい。しかし、すでに述べた国会ルールのおかげで、レーフ党首はまだ解決策を見つけられるかもしれない。

彼女は社民党から再び首相が選ばれて後悔することになるかもしれないと主張する専門家もいる。そうすると、中央党はその結果について、新政権やその予算に対する反対を辞退することで我慢するしかない。また、彼女はしばらくすると、穏健党の

クリステション党首がすでに示し、スウェーデン民主党に受け入れられている、中央党を除くより小さな少数与党政権という提案をしぼしぼ受け入れるかもしれないとの推測もある。

あるいは他の識者が示唆するように、レーフ党首自身が、新たに選出された国会議員が最も嫌っていない首相候補者となることもまったく考えられないわけではない。その見方によれば、かなり極端な少数与党政権が成立することもありうる。1979年には、39議席しかもたない自由党（当時は国民党）が単独政権に就いたことがある。事実、1971年以降にスウェーデンでは過半数与党政権は10年しかなく、スウェーデンは少数与党政権による効率的な統治の例といえる。

2つの明確な政治ブロックがない現在のスウェーデンの政治状況は、多くのヨーロッパ諸国に共通したものであることに気づかされる。スウェーデン国民はこの新しい政治状況に慣れる必要があるだろう。現時点では、誰が次期首相になるのかわからない。国民も心配しているが、この状況は最終的には解決されだろうと筆者は見ている。■

\*本稿で示した見解は筆者個人のものであり、筆者の所属組織を代表するものではない。

